

発行所 〒160-0017
東京都新宿区左門町11番地6の101
社団法人 大学婦人協会
電話 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889
http://www.jauw.org
E-mail: jauw@jauw.org
発行人 田中正子
編集責任者 佐々木 澄子

J A U W

おもな記事

- 1面 会長あいさつ、第49回通常総会議事録
- 2面 総会開催支部報告、支部長・理事・監事名簿
- 3～5面 事業報告、事業計画
- 6、7面 守田科学研究奨励賞論文概要、国際奨学生報告会、守田科学研究奨励賞・国内奨学生募集要項、特別会計報告、UWA総会
- 8面 2005年度決算報告、2006年度予算

第49回通常総会特集

懸案の「名称変更」、審議し直し

第49回通常総会が人情豊かな秋田の地で開催された。158名が参加。予定時間オーバーの熱心な討議の結果、「名称変更」は本年度に、あらためて審議し直しとなった。国内奨学金資金設立募金は、順調に目標額1千万円を達成した。

社団法人 大学婦人協会

第49回通常総会議事録

日 時：2006年4月9日(日)

場 所：秋田キャッスルホテル「放光の間」

出席者：出席者 158名 委任状 646名

計 804名

出席支部：札幌・秋田・仙台・福島・新潟・茨城・栃木・長野・東京・神奈川・静岡・愛知・金沢・福井・京都・奈良・大阪・神戸・岡山・広島・大分・熊本・福岡
以上23支部
欠席支部：小樽・函館・群馬・岐阜・山口・愛媛・高知・長崎・鹿児島
以上9支部

〔午前の部〕

司会 副会長 柳原由美子
書記 田中真紀子
総会成立確認

2006年4月9日、午前9時現在の出席者138名、有効委任状646名、合計784名となり、定款第5章第32条に基づき、正会員1478名の1/5(296名)以上の出席により、総会が成立することを確認する。

開会の辞 会長 今井 けい
逝去会員8名のご冥福を祈って一同起立、黙祷。
議長承認 定款第5章第29条による

議事 第1号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第2号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第3号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第4号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第5号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第6号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第7号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第8号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第9号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第10号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第11号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第12号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第13号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第14号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第15号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第16号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第17号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第18号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第19号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第20号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第21号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第22号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第23号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第24号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第25号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第26号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第27号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第28号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第29号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第30号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子



創立60周年を迎えて

会長 田中正子

厳しい財政状況の中で、今井前会長の在任中に、国内奨学金事業を大学院生以上への授与に改正し社会福祉奨学金と規程を整備し、国内奨学金資金設立に踏み切りました。国際奨学金についても、基金の取り崩しにより事業の安定化が図られ、守田科学研究奨励賞についても、副賞の金額を引き上げて自然科学分野の女性研究者への日本最高の奨励賞とするなど、前任者た

り、今井けい会長が議長となる。承認 柳原由美子
書記 田中真紀子
秋田支部 稲村 綾子・秋山真理子
承認 柳原由美子

議事 第1号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第2号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第3号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第4号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第5号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第6号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第7号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第8号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第9号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第10号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第11号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第12号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第13号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第14号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第15号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第16号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第17号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第18号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第19号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第20号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第21号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第22号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第23号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第24号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第25号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第26号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第27号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第28号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第29号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第30号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第31号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第32号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第33号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第34号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第35号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第36号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第37号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第38号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第39号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第40号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第41号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第42号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第43号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第44号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第45号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子

議事 第46号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第47号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第48号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第49号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子
第50号議案 2005年度事業報告
承認 柳原由美子



第49回通常総会 秋田キャッスルホテル「放光の間」にて (2006年4月9日)

送付(会員委員長)、本部や支部の事業や本部の委員会活動への参加及び委員会への助言(会長)。
③支部本部において、女性に理解があり、かつ、女学生に伝わるような女性観にとらわれない高度な専門技術・職業教育の専門家が必要である。
④委員会へは全国の支部から入った自分たちの活動、費用は自己負担(会長)。
⑤全体会では、分科別各委員会が国内NGO委員会メンバーがそれぞれを担当。国内NGO委員会へ入った自分たちの活動(国内NGO委員長)。
⑥プラティープ財団へ約

15万円(支部と全国の里親より)、インド・カシミール地域へ約31万5千円(一人約6,000円を約20名に、残金はカシミール銀行に預金)(金沢支部長)。
⑦募金開始時に検討したが、難しかりうと判断(会長)。
⑧社団法人のため難しい(会長)。
⑨前向きに取り組むための情報委員会、JAUWのネットワークへの直接コンタクトが可能(詳細は国際委員長へ)。
⑩個人情報保護への配慮(会長)。

2. 国内奨学金資金募集に
国内奨学金は1948年、寄付によって始められた。先輩諸氏の意志を引き継ぐためにも続けていく努力が必要である。歴代会長、国内奨学委員長・社会福祉委員長・財務委員長等多くが起ち人となっており、この募金は1千万円を超えたことは、会員の協力の賜物である。しかし、ここ数年の間に公益法人として存続するためには、JAUWが公共に資する活動をする必要がある。今後とも国内奨学事業は続金口座(銀行・郵便局)は継続して開設されており、皆様の協力をお願いしたい。

3. JAUWの財政状況について
財務委員会の監査も行った。規程により、財務委員会はJAUWの活動を助けるために寄付金を作ることに任務である。本来は会員の協力により寄付金を作る企画を任されているのが財務委員会である。ところが、日本全体の不況等により財務委員会の負担が重くなっている。来年度からは発想の転換を図り、財務委員会ばかりに苦勞を掛けないよう、JAUW会全体の問題として新たな方策を考へよう次年度の理事会に提言する。

第2号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第3号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

第4号議案 新役員付理事・監事の承認(会報220号参照)
監事承認 柳原由美子
副会長 阿部 幸子(新任)
副会長 鷲見八重子(新任)
書記 岩田 玲子(新任)
書記 牧島悠美子(新任)
書記 秋 薫(新任)
書記 長谷川千恵子(新任)
書記 五十嵐康子(再任)

第5号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第6号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

第6号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第7号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

第7号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第8号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

第8号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第9号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

第9号議案 2005年度収支決算並びに資産状況及び第10号議案 監査報告について議長は承認を求めた。承認 柳原由美子

2007年度全国セミナーに向けて
「ジェンダー問題を考えるシンポジウム」
— 高等教育の視点から —

日 時：10月14日（土）10：00～16：00

場 所：津田塾会本館大教室

第1部 基調講演 浅倉むつ子氏（早稲田大学法科大学院教授）

「学術の世界にとってジェンダーの視座はなぜ重要か」

第2部 パネルディスカッション

「＜ジェンダートラブル＞をめぐって」

問い合わせ：鷺見企画委員長まで y-sumi@mwe.biglobe.ne.jp

- 勉強会「教育とジェンダー」を開催。

第1回 7月10日(月) 阿部幸子副会長「高等教育の現状と課題」

第2回 7月24日（月）青木怜子聖心女子大学名誉教授「女子大学は、今」

いずれも、13：30～15：30、本部事務所にて。

監事 田中トモ子(新任) 議長は、新役付理事・監事の承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。議長より、新役付理事・監事の紹介。 第5号議案 新役員選考委員の承認(会報221号参照) 丸山庸子役員選考委員長より、当法人の役員選考委員の内、有本玲子委員・富樫絢子委員・阿南糸代委員は2005年度末で任期満了になるため、新役員選考委員として、尾上夏子委員・高井敬子委員・宮島茂子委員の3名を推薦する。 議長は、新役員選考委員の承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。 議長より、新役員選考委員の紹介。 第6号議案 2006年度事業計画案 (1) 総務 書記 縄田眞紀子「2006年度事業計画」参照 (2) 委員会 各委員長「2006年度事業計画」参照 (3) 支部 各支部長「2006年度事業計画」参照 中村ミチコ会員より、「大学婦人協会はこのままで育ってきた立派な組織であることをもう一度認めていただき、通常総	会報告書に添付されている定款を丁寧に読み直していただきたい」旨の発言があった。 議長は、(1)・(2)・(3)の2006年度事業計画について承認を議場に諮ったところ、承認可決された。 第7号議案 2006年度予算案 財務委員長 大森たへ子「2006年度収支予算書案、4月1日」総会までのみなし収入・みなし支出」参照 (1) 2006年度大学婦人協会予算書(案) (2) 総会までの「みなし収入・みなし支出」による運用について 議長は、(1)・(2)について承認を議場に諮ったところ、承認可決された。 (案)を取る。 (3) 2007年4月1日」総会までの「みなし収入・みなし支出」による運用について (4) 「2007年度の『みなし収入・みなし支出』及び『予算案』・『事業計画案』を2006年度内に理事会及び持ち回り評議員会で承認を得た後、2007年3月31日までに文部科学省に提出することについて 議長は、(3)・(4)について承認を議場に諮ったところ、承認可決された。
--	---

る、承認可決された。

会長が第8号議案の提案者になるため、田中正子副会長に議長交替。

第8号議案 名称変更 会長 今井 けい

趣旨説明

「1. 長年の懸案事項である。2. 会員の減少傾向に歯止めをかけたたい。3. 所轄官庁文部科学省の基本的動きである。4. JAUWの近代化・合理化のため。5. 関係団体の名称についての実情（内閣府男女共同参画推進連絡会および国際婦人連携会議所属団体の中で、性別に無関係の名称をもつ団体を除く過半数の団体で「女性」の文言を使用）。6. 名称変更に伴う費用（約20万円）」により、名称変更「大学女性協会」を提案する。（資料「名称変更について」参照）。

経過報告

柳原副会長より、名称変更にいいた経緯と2004年12月・2005年12月実施のアンケート結果についての説明及び名称変更に関する代表的な賛成・反対意見についての紹介。（資料「名称変更についての経緯」「2004年度・2005年度アンケート結果（参照）」）

名称変更は、定款変更に

更について継続審議にする」について議場に採決を求める。採決の結果「賛成69票、反対72票（議場総数 141票）」により、動議「名称変更について継続審議にする」は否決された。

(2) 議長は、第8号議案「名称変更「大学女性協会」について議場に採決を求める。」議場からの質問に対し、委任状における賛否の数を発表（賛成535票、反対86票、その他25票、有効委任状総数646票）。

(3) 動議「名称変更「JAUW」が提案される」議長は、動議「名称変更「JAUW」について議場に採決を求める。」採決の結果「賛成73票、反対68票（議場総数 141票）」により、動議「名称変更「JAUW」が過半数を占め採択された。動議の採決の結果は、第49回通常総会委任状に記載された議案と合致しない部分がある。よって、第8号議案はこのためは採決は不可能であるため、来年改めて提案、審議し直しとなる。

「名称変更について、支部に持ち帰って真剣に考えていただきたい」と議長が要請。

2. 国内奨学金制度の現状と展望 国内奨学委員長 鷲見八重子 (1) 国内奨学事業のあゆみと追跡調査報告 (2) 今後の課題 (3) (資料)「国内奨学事業の継承と発展」(参照) 3. 若手会員育成金について 副会長 柳原由美子 (1) 2006年度若手会員育成金による研究会 金沢支部 萩原扶未子 会 員主宰 女性起業家研究会 テーマ：女性の自立としての起業考察―石川県の事例検討― (2) 研究成果はセミナーで発表 応募が少ないので若手会員増強のためにも各支部で積極的に取り組んでいただきたい。 4. UWA総会について (1) 国際委員長 穂田 信子 テーマ：「国際平和構築における変革の担い手としての女性」 (2) 開催日程：5月25日～27日 (3) 開催地：マニラ（フィリピン） (4) 登録手続：所定の用紙に記入本部へ（ファックス可）、期間は今日より1週間。	次期総会開催地について
--	--------------------

第49回通常総会開催支部報告

秋田支部長

湊

則子

今年の通常総会は、秋田キヤッスルホテルで開催されました。今年は数十年来の豪雪で、市内の広場には除雪で集められた雪の山が出来ましたが、柔らかな春の日差しに解け、山も低くなりました。

今井会長から総会会場の要請があり、会員数は少ないながら、幅広い世代が揃っている今ならと、お引き受けしました。秋田支部発会は1947年、全国では9番目です。菅原実行委員長を中心に、本部のご指導や助言をいただき、役割分担をして進め、当日を迎えることが出来ました。

総会前日の支部長懇談会

では、各支部の活動状況や、国内奨学金募金の件、国内奨学生の選考方法や本部選考委員の構成の再検討、若手会員育成、本部と支部の連携など、熱心に話し合いました。

夜の懇親会では、秋田の食材を中心に味わっていた。「秋田民謡のひとつとさき」、高校生による「秋田おばこ・音頭」などの囃子と手踊りは洗剤として、しなやかで切れがあり、指先まで神経が行き届き、皆までに喜ばれました。

翌日の総会には出席者158名で、次第に沿って進行しましたが、第8号議案の「名称変更」につ

いては、各支

部へのアンケ

ート結果も公

表されました

が、動議が出

されるなど決

をとる状況に

はなく、次年

度に審議し直

したとなりました。

懇親会で合唱する秋田支部の皆さん

時間延長で退場する会員が多く、残念な幕切れでした。

第49回通常総会開催支部報告

秋田支部長 奏 則 子

支部長名簿 (2006年度)

支部名	氏 名	出身校
小樽		
札幌	藤田 洋子	東北
函館	野又紀美子	東女
秋田	佐伯 邦子	秋田
青森	渋谷由美子	桐音
福島	荻原ノリ子	福島
新潟	鈴木 裕美	名古屋
茨城	牧野恵美子	大阪学芸
栃木	糸井 克	津
群馬	石出 りえ	神奈川
長野	徳田 節子	茶
東京	森川 淳子	茶
神奈川	西村寿美子	日女
静岡	鈴木キミエ	津
愛知	林 恭子	名古屋
岐阜	松井 恵美	津
金沢	安原 和子	日女
福井	山田 由美	武庫女
京都	松田 栄子	大女
奈良	藤原 素子	奈女
大阪	北嶋貴美子	大女
神戸	三木谷節子	神戸
岡山	岡崎 優子	岡山・京都院
広島	山手万知子	広島
山口	松岡 静子	日女
愛媛		
高知		
大分	井野邊陽子	熊本
熊本	大堂喜三子	福女
福岡	和栗 方子	茶
長崎	平野 啓子	日女
鹿児島		

理事・監事名簿 (2006年度)

役職名	氏 名	出身校
会 長	田中 正子	茶
副 会 長	阿部 幸子	茶
副 会 長	鷺見八重子	津・院
書 記	岩田 玲子	武蔵音
書 記	牧島悠美子	茶
会 計	秋月 薫	茶
会 計	長谷川千恵子	津
財 務	江口 昌子	日女
国内奨学	窪田 憲子	津・院
国際奨学	平野 和子	東女
科学研究奨励	平川 曉子	東都・東京院
国 際	穂田 信子	京都
国内NGO	岡部 道子	日女
教 育	東山セツ子	茶・明院
女性の地位	房野 桂	津・テンプル
社会福祉	林 千代	日女・東洋院
広 報	佐々木澄子	東女
会 員	福田 文子	早
情 報	井口美登利	津
東京支部	森川 淳子	茶
監 事	五十嵐康子	津
監 事	田中トモ子	奈女

《理事会から》

● 2005年度寄付（敬称略、2万円以上）

(故)久保貞子 廣田輝子 平野和子
三浦由紀子 匿名希望1名(財務委員)
源氏物語を読む会Ⅰ、源氏物語を読む会Ⅱ(東京支部)
ほか、多くの方からご寄付いただきました。

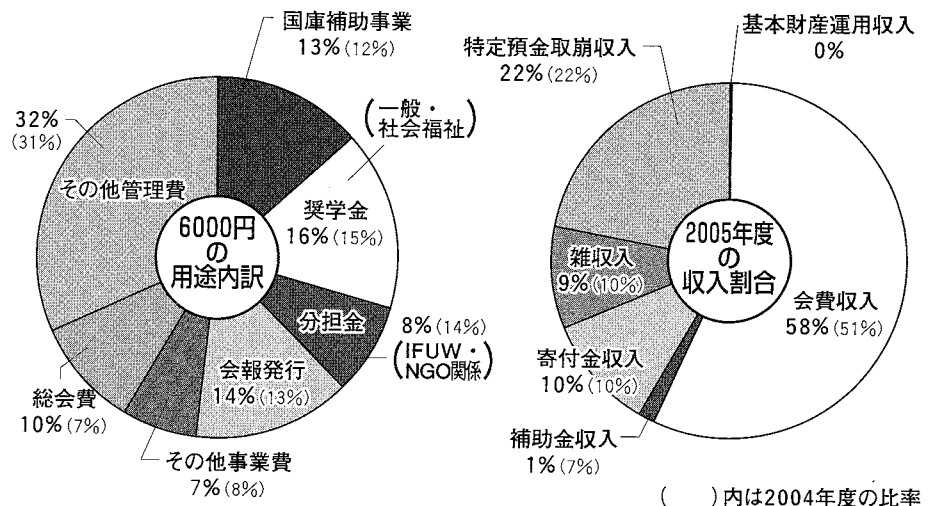
- 2006年度若手会員育成金は、金沢支部の女性起業家研究会（荻原扶未子会員主宰）に決定。

● 4月、IFUW副会長ルイズ・クルート氏が来日。
「IFUWの最近の動き」について講演。

「J A U W」とは？

J = Japanese
A = Association
U = University
W = Women
Japanese Association
of University Women
 (大学婦人協会) の略称

あなたの本部会費(6,000円)はこのように使われています
(2005年度)



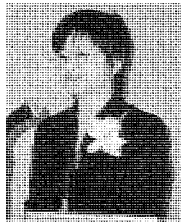
(注:寄付金収入の金額は国内奨学金の募金と国際奨学金指定寄付を除いています。)

J A U Wには、上記奨学金のほかに、別会計として、
国際奨学金・安井医学奨学金、そして科学研究奨励賞があります。

生体高分子の
構造生物学的研究

京都大学原子炉試験所助手

喜田 昭子 (構造生物学)



守田科学研究奨励賞受賞者論文概要

生体内で起こる反応は、生体高分子(タンパク質)と基質分子の巧みな相互作用によって制御されている。タンパク質の原子レベルでの立体構造は、そのタンパク質がつかさどる反応機構の理解に直接的な情報を提供することが出来るものである。筆者は、タンパク質反応の分子機構をその立体構造の視点から解明することを目指して、種々のタンパク質の結晶化とX線構造解析を行ってきた。得られた立体構造は、生物学的研究の基盤となるものであり、生命現象の解明に寄与することが期待できる。ここでは以下の2つの例について紹介する。

1) 二原子酸素添加酵素、メタピロカテカーゼの結晶構造解析

メタピロカテカーゼは、純粋なカテコール環の2つの水酸基の隣の結合を、分子状酸素を使って開裂させる二原子酸素添加酵素の1つである。筆者は本酵素の結晶構造解析に初めて成功した。この立体構造により、活性中心に鉄原子を含む307残基のタンパク質が四量体を形成して機能していることや、アセトン分子が活性部位への通り道をふさぎ、鉄原子の分子外への排出を防ぐことで活性を保持していることなど、活性中心の鉄原子の配位環境が明らかになった。

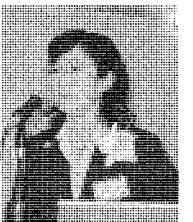
2) プロテインホスファターゼ1-カリクリンA複合体の結晶構造解析

多くの生体内反応はタンパク質のリン酸化・脱リン酸化による調節を受ける。脱リン酸化反応を触媒する酵素の1つがプロテインホスファターゼ(PP1)である。PP1と、阻害物質の1つである天然毒物カリクリンAの複合体結晶を作成し構造解析を行った結果、カリクリンA分子は、他の阻害物質とは違う、新しい結合様式をとることが明らかになった。

二酸化炭素の中での酵素を
利用する有用物質の生産法の開発

東京工業大学大学院生命理工学研究科生物プロセス専攻講師

松田 知子 (生物有機化学)



環境を守りつつ持続的に科学を発展させることは非常に重要であり、そのため京都議定書でも求められるように、二酸化炭素の排出量の削減は必須である。とくに、医薬品製造においては、製品に対する廃棄物の割合が多く改善する必要がある。

では、環境に負荷をかけない医薬品の製造プロセスとは、どのような方法があるのか?例えば、合成プロセスで、“再生可能な資源”を利用することである。そこで注目されているのが、二酸化炭素を有機溶媒のかわりに利用する方法である。通常、二酸化炭素は気体であるのでそのままでは溶媒にはならないが、二酸化炭素に圧力をかけ超臨界状態にすると、溶媒として用いることが出来る。私は、超臨界二酸化炭素を医薬品中間体合成のためのバイオプロセスに用いた。

本研究で超臨界二酸化炭素の中で用いた酵素は、アルコール脱水素酵素、リパーゼ、脱炭酸酵素の3種類である。アルコール脱水素酵素によるケトンの不斉還元反応は、立体選択性が非常に高く、光学活性アルコールの合成に有用である。リパーゼは、有機化合物に対する耐性があり、扱いやすく便利な酵素である。脱炭酸酵素は、名前の通り、自然界では有機化合物から炭酸(二酸化炭素)を脱離する酵素である。しかしその逆反応、つまり“二酸化炭素を有機化合物へと付加する反応”も促進する。この反応に超臨界二酸化炭素を用いると、二酸化炭素が多量に存在するため反応が効率化できた。

今後も、二酸化炭素を有効利用するバイオプロセスの開発をさらに続け、有機溶媒の使用量の削減や反応の効率化を行いグリーンケミストリーを発展させることにより、社会貢献を果たしたい。

《国際奨学生報告会》

「タンザニアの繊維産業排水中の
内分泌攪乱物質の検出」
— マグダレーナ・ムテンガさん(タンザニア) —
— サフリナ・レグミさん(ネパール) —

「気候変動とジェンダー」
— サフリナ・レグミさん(ネパール) —

ネパールから来日し、
(財)地球環境戦略研究
機関で「気候変動とジェ
ンダー」についての調査
研究を行っていたサフリ
ナ・レグミさんの報告会
が、12月6日にJAUW
の会議室で開催された。
レグミさんの研究目的
は、温暖化による気候変
動の影響とその緩和策
に、開発途上国と先進諸
国とでジェンダーがどの
ように関わっているのか
を比較検討することであ
り、文献調査による情報
収集と、日本での気候変
動緩和に対する女性の役
割についてのアンケート
調査が行われた。
多くの開発途上国では
性別役割が固定化し、生
活に必要な燃料、水、食
料の調達には女性の仕事、
時には女兒もそれを担わ
されている。付近の薪は
採り尽くされ、遠方から
の薪の調達には時間と労
力を要し、竈から発生す
る排煙のために健康を害
していることなどの実態
を知り、私たちは環境問
題とジェンダー役割との
関係について改めて認識
した。
帰国後アンケート調査
の結果を解析し、研究結

果を報告書にまとめて提
出されているので(本部
委員会では保管)、興味
のある方は、是非、お読み
いただきたい。
タンザニアのマグダレー
ナ・ムテンガさんは
「タンザニアの繊維産業
排水中の内分泌攪乱物質
の検出」のテーマで、京
都大学大学院で日本での
廃水処理技術について学
び、バイオアッセイ法を
応用したダイオキシン類
の分析法を検討された。
2月20日には、アルカデ
イア市ケ谷での昼食会と
報告会で滞在中に行われ
た研究内容、タンザニア
の環境問題や女性たちの
生活などについても様々
な角度から話をされた。
タンザニアの最大都市、
ダルエスサラームでは急
速な工業化、都市化によ
って交通渋滞、水環境や
大気汚染など様々な問
題が発生している。
工場排水はほとんど未
処理のまま都市やその周
辺の河川などに捨てられ
るため、水の汚染は深刻
な問題になっている。特
に化学物質による汚染の
対策には、汚水の浄化対
策も必要だが、それらの
物質が国外から持ち込ま
れないような対策をとる
ことが大切だというムテ
ンガさんの言葉が印象的
であった。
(阿部 幸子)

新入会員 (23名) 2006年3月~6月 (理事会承認)	
東京支部	愛知支部
新井 美帆 (立)	坂部 照子 (南山)
海老原 典子 (東女)	寺西 佳子 (南山)
大嶋 かず路 (東芸)	中西 久枝 (UCLA)
加来 美智子 (慶)	ヒンデルマン・旦 道子 (京女)
木川 真美 (実)	福井支部
熊谷 稲子 (二松学舎)	大橋 直子 (早)
柴田 マリ (茶)	京都支部
島村 眞智子 (茶・東都院)	村澤 民子 (奈女)
鈴川 佳子 (奈女)	大坂支部
玉澤 淑子 (日女)	北嶋 貴美子 (大女)
田村 充代 (慶・院)	北嶋 茂代 (大女)
平井 和子 (東女)	神戸支部
細貝 久美子 (茶)	吉田 玲子 (神女)
	福岡支部
	阿部 智子 (聖)

2006年度委員会名簿	
【財務委員会】	委員長 江口 昌子
委員	井口美登利 出田 恭子
	市川知恵子 遠藤 理枝
	大森たへ子 奥津 成子
	片柳 洋子 金子 京子
	熊切 富子 斉藤 智恵
	坂井 英子 佐々木洋子
	鈴木美代子 鈴木 行子
	住友千代子 関口 瑞穂
	高林 益江 太刀川洋子
	中山 正子 中山 律子
	縄田眞紀子 藤谷 文子
	細田 照子 待場田鶴子
	松崎 和子 松村美枝子
	八ッ橋宣子 山崎 邦子
	山村 敬子 秋月 薫
	長谷川千恵子
【国内奨学委員会】	委員長 窪田 憲子
委員	浅井とし子 今井 けい
	上野 郁子 牛山 通子
	岡部 佳世 加藤 恭子
	金子 尧子 冠木 敦子
	坂上栄美子 高梨 禮子
	辻 英子 中村 昌美
	林 千代 牧 久恵
	松崎 園子 松嶋由紀子
	三浦由紀子 森川 淳子
【国内NGO委員会】	委員長 岡部 道子
委員	曾我 邦子
【国際奨学委員会】	委員長 平野 和子
委員	阿部 幸子 市川知恵子
	井上 章子 片山 倫子
	加納 孝代 小西 厚子
	五味 澄子 古山みゆき
	時枝 裕子 西尾 順子
	根岸 愛子 廣田 貞子
	宮島 茂子 山中 照子
【科学研究奨励委員会】	委員長 平川 暁子
委員	蟻川 芳子 伊藤 厚子
	井上久仁子 岩村 道子
	大野 涼 帯刀 章子
	熊谷 晶子 小林 昭子
	今野美智子 時枝 裕子
	中川 昌子 室伏きみ子
	八木 江里
【女性地位委員会】	委員長 房野 桂
委員	中村 道子 飯田 寛子
	大塚佐枝美 小西 厚子
	高田 素子 平井 和子
	平川 敦子 廣田 輝子
	増淵 民子 松浦 千登
	丸山 庸子 山本 和代
【社会福祉委員会】	委員長 林 千代
委員	磯村 明子 伊藤智恵子
	遠藤加奈子 木原 優子
	熊谷 稲子 児林 英子
	駒木三枝子 鈴木 光子
【教育委員会】	委員長 東山セツ子
委員	大森たへ子 長田 満江
	加藤 恭子 川崎 協子
	島村眞智子 中関美砂子
	橋本 慶子 福田 文子
	牧島悠美子 宮下 好子
	八木 博子 山中 照子
【委員会】	委員長 福田 文子
委員	菊池 晴子 桑折 美子
	後藤 晶子 庄司 ヨシ
	西田 節子 橋本津栄子
	堀口 裕子 三浦 久子
	三浦由紀子 溝渕ひろ子
	三森 紀子 村松 育子
	山下 靖子
【情報委員会】	委員長 井口美登利
委員	有本 玲子 井上久仁子
	遠藤 理枝 岡部 佳世
	駒木三枝子 齊藤加代子
	関口 瑞穂 高田 素子
	野田紀代子 福田 満代
	藤谷 文子 百束 礼子
【広報委員会】	委員長 佐々木澄子
委員	尾上 夏子 片柳 洋子
	河井 尚子 小池 朋子
	坂上栄美子 鈴木 光子
	端本 和子 早瀬 暢子
	日置 恵子 福士仁三代
	松本 佳子 百束 礼子
【委員会】	委員長 福田 文子
委員	山崎 邦子 百束 礼子
【委員会】	委員長 福田 文子
委員	玉井美枝子 長岡 茂子
	中平 玲子 中山 律子
	縄田眞紀子 野崎 方子
	望月 浪江 吉原 雅子

いつまでも、
見つめ続けるチカラを。

Bausch & Lomb

Ocuvite

「ボシュロム オキュバイト+ルテイン」は
ビタミン、ミネラル、ルテインを
バランスよく配合した
栄養機能食品(サプリメント)です。

「オキュバイト」に関してのお問い合わせは
0120-098148 <http://www.ocuvite.jp>
サンプルを差し上げています。上記までお問い合わせください。
〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-2 ボシュロムジャパン株式会社

監 事 静間 敏子 五十嵐 康子

2005年度 社団法人 大学婦人協会収支決算報告書及び貸借対照表

収 支 計 算 書

(2005年4月1日から2006年3月31日まで)

(単位:円)

貸 借 対 照 表

2006年3月31日現在

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	科 目	金 額		
I 収 入 の 部					II 支 出 の 部					I 資 産 の 部			
1 基本財産運用収入	20,100	25,712	△5,612		1 事業費	11,495,000	9,232,507	2,262,493	前年度まで文科省補助事業	1 流動資産			
基金口座利息					日本中東女性交流奨学	1,800,000	1,522,714	277,286		現金	100,000		
事業基金利息	10,000	17,494	△7,494		国内奨学金	1,200,000	1,200,000	0	20万円×6名	普通預金	4,718,989		
ホームズ基金利息	100	18	82		社会福祉奨学金	300,000	300,000	0	20万円・10万円各1名	定期預金	4,850,000		
国際奨学金基金利息	10,000	8,200	1,800		贈呈式参加費	100,000	70,000	30,000		郵便振替	383,570		
2 入 会 金 収 入	80,000	50,000	30,000		国際奨学金	2,000,000	1,494,865	505,135	65万円・75万円各1名	流動資産合計		10,052,559	
入 会 金	80,000	50,000	30,000	¥1,000×50名	ホームズ奨学金	0	0	0		2 固定資産			
3 会 費 収 入	9,090,000	8,484,000	606,000		安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000	30万円×1名	基本財産			
正会員会費収入	9,000,000	8,400,000	600,000	¥6,000×1400口	守田科学研究奨励金	1,260,000	1,311,735	△51,735	50万円×2名	事業基金	44,600,000		
賛助会員会費収入	90,000	84,000	6,000	¥6,000×14口	若手会員育成金	1,000,000	200,600	799,400		ホームズ基金	2,000,000		
4 補助金収入	500,000	220,000	280,000		分 担 金					国際奨学金基金	40,000,000		
中東女性交流補助金	500,000	220,000	280,000	前年度まで文科省補助事業	IFUW・UWA会費	700,000	653,650	46,350	05年分2回目支払1250名	基本財産合計	86,600,000		
5 寄付金収入	1,350,000	13,041,671	△11,691,671	(財務委員会より140万円・故久保貞子氏より国際奨学金指定寄付100万円・東京支団指定寄付10万円・その他)	IFUW関係連絡費	100,000	0	100,000		その他の固定資産			
会員その他寄付	1,250,000	2,566,171	△1,316,171		NGOその他	145,000	145,000	0	含05年民間女性会議分担当	特定預金			
国内奨学金指定寄付	100,000	10,475,500	△10,375,500	国内奨学金資金の募金	助 成 金					国際奨学金	18,654,458		
6 雑 収 入	1,512,000	1,392,945	119,055		IFUW寄付金	50,000	51,500	△1,500	ビーナ・ロイ事業支援金	国内奨学金	10,243,149		
受取利息			0		支部振興費	85,000	61,600	23,400		安井医学奨学金	6,593,117		
運用財産利息	2,000	1,293	707		各委員会活動費	520,000	540,857	△20,857		守田科学研究奨励金	18,098,627		
審査手数料	0	0	0		図書・資料費	5,000	0	5,000		ホームズ奨学金	309,772		
広告料収入	150,000	200,000	△50,000		印刷製本費					若手会員育成金	5,976,603		
総会参加費	690,000	570,000	120,000	¥3,000×190名	名簿発行行	0	0	0		退職給与積立金	30,000		
雑収入		0	0		会 報 発 行	1,500,000	1,173,900	326,100	年4回発行	土地	36,400,024		
分 担 金	570,000	570,000	0	東京支部管理費分担	通 信 費	20,000	0	20,000		建物	15,038,376		
名 簿	0	0	0		給料・手当	400,000	206,086	193,914		什器・備品	500,000		
私用電話他	100,000	51,652	48,348		給料・夏・冬手当	5,243,700	5,188,207	55,493		電話加入権	100,000		
7 特定預金取崩収入	4,570,000	3,307,200	1,262,800		法定福利費	310,000	265,412	44,588	労働保険・社会保険	その他の固定資産合計	111,944,126		
安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000		総 会 費	1,400,000	1,521,750	△121,750		固定資産合計		198,544,126	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,311,735	△51,735		理事會費	0	0	0		資 産 合 計			208,596,685
国際奨学金	2,000,000	1,494,865	505,135		役員選考委員会費	0	0	0		II 負債の部			
若手会員育成金	1,000,000	200,600	799,400		旅 費 交 通 費	60,000	57,600	2,400		1 流動負債			
ホームズ奨学金	0	0	0		通信運搬費	200,000	191,633	8,367		流動負債合計		0	
					什器備品費	100,000	28,680	71,320		2 固定負債			
					消耗品費	380,000	508,862	△128,862		退職給与引当金	30,000		
					印刷製本費	40,000	32,865	7,135		固定負債合計		30,000	
					負担金	325,200	325,200	0		負債合計			30,000
					光熱水料	140,000	115,628	24,372	会計士謝礼	III 正味財産の部			
					諸謝金	120,000	120,000	0	固定資産税	正味財産			208,566,685
					租 税 公 課	168,500	168,300	200		(うち基本金)			(86,600,000)
					雑 費	70,000	77,343	△7,343		(当期正味財産増加額)			(8,277,551)
					3 繰入金支出	150,000	11,493,718	△11,343,718		負債及び正味財産合計			208,566,685
					事業基金繰入	0	0	0					
					退職給与積立金繰入	30,000	10,000	20,000					
					国際奨学金積立金繰入	10,000	1,008,200	△998,200	久保貞子氏遺贈金・利息				
					ホームズ奨学金積立金繰入	10,000	18	9,982					
					国内奨学金積立金繰入	100,000	10,475,500	△10,375,500	国内奨学金資金の募金				
					4 予 備 費	100,000	0	100,000					
A 当期収入合計	17,122,100	26,521,528	△9,399,428		D 当期支出合計	16,988,700	25,914,432	△8,925,732					
B 前期繰越収支差額	10,000,000	9,445,463	554,537		E 当期収支差額 (A-D)	133,400	607,096	△473,696					
C 収 入 合 計 (A+B)	27,122,100	35,966,991	△8,844,891		F 次期繰越収支差額 (C-D)	10,133,400	10,052,559	80,841					

○監査報告 監査の結果、収入・支出ともにすべて正しく記録されており間違いないことを認めます。

平成18年4月3日

監事 静間 敏子 五十嵐 康子

2006年度 社団法人 大学婦人協会収支予算書

(2006年4月1日から2007年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考	科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
I 収 入 の 部					II 支 出 の 部				
1 基本財産運用収入	20,100	20,100	0		1 事業費	11,015,000	11,495,000	△ 480,000	
基金口座利息					セ ミ ナ ー 費	200,000	1,800,000	△1,600,000	前年度 日本・中東女性交流
事業基金利息	10,000	10,000	0		奨 学 金				
ホームズ基金利息	100	100	0		一般奨学金	1,200,000	1,200,000	0	¥200,000×6名(ホームズ奨学金を含む)
国際奨学金基金利息	10,000	10,000	0		社会福祉奨学金	300,000	300,000	0	
2 入 会 金 収 入	60,000	80,000	△20,000		贈呈式参加費	100,000	100,000	0	
入 会 金	60,000	80,000	△20,000	¥1,000×60名	国際奨学金	2,000,000	2,000,000	0	¥1,000,000×2名
3 会 費 収 入	8,490,000	9,090,000	△600,000		安井医学奨学金	310,000	310,000	0	¥300,000×1名
正会員会費収入	8,400,000	9,000,000	△600,000	¥6,000×1400口	守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0	¥500,000×2名
賛助会員会費収入	90,000	90,000	0	¥6,000×15口	若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0	
4 補助金収入	0	500,000	△ 500,000		分 担 金				
日本・中東女性交流補助金	0	500,000	△ 500,000	前年度 日本・中東女性交流	IFUW・UWA会費	2,020,000	700,000	1,320,000	1名につき18スイスフラン×1250名
5 寄付金収入	1,100,000	1,350,000	△250,000		IFUW関係連絡費	100,000	100,000	0	
会員その他寄付	1,100,000	1,350,000	△250,000	含 東京支部指定寄付10万	NGOその他	45,000	145,000	△100,000	2005年民間女性会議分担当
6 雑 収 入	1,512,000	1,512,000	0		助 成 金				
受取利息			0		IFUW寄付金	50,000	50,000	0	ビーナ・ロイ事業支援金
運用財産利息	2,000	2,000	0		支部振興費	85,000	85,000	0	
審査手数料	0	0	0		各委員会活動費	620,000	520,000	100,000	
広告料収入	150,000	150,000	0		図書・資料費	5,000	5,000	0	
総会参加費	690,000	690,000	0	¥3,000×230名	印刷製本費				
雑収入			0		名簿発行行	0	0	0	
分 担 金	570,000	570,000	0	東京支部管理費分担	会 報 発 行	1,350,000	1,500,000	△150,000	年4回発行
私用電話他	100,000	100,000	0		通 信 費	20,000	20,000	0	
7 特定預金取崩収入	6,070,000	4,570,000	1,500,000		給料・手当	350,000	400,000	△50,000	
安井医学奨学金	310,000	310,000	0		2 管 理 費	5,243,700	5,243,700	0	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0		給料・夏・冬手当	1,930,000	1,930,000	0	
国際奨学金	2,000,000	2,000,000	0		法定福利費	310,000	310,000	0	社会保険・労働保険
若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0		会 議 費	1,400,000	1,400,000	0	
国内奨学金	1,500,000	0	1,500,000	一般120万・社会福祉30万	理事會費	0	0	0	
					役員選考委員会費	0	0	0	
					旅 費 交 通 費	60,000	60,000	0	
					通信運搬費	200,000	200,000	0	
					什器備品費	100,000	100,000	0	
					消耗品費	380,000	380,000	0	
					印刷製本費	40,000	40,000	0	
					負担金	325,200	325,200	0	
					光熱水料	140,000	140,000	0	
					諸謝金	120,000	120,000	0	会計士謝礼
					租 税 公 課	168,500	168,500	0	固定資産税
					雑 費	70,000	70,000	0	
					3 繰入金支出	860,000	150,000	710,000	
					事業基金繰入	0	0	0	
					退職給与積立金繰入	30,000	30,000	0	
					国際奨学金積立金繰入	10,000	10,000	0	
					ホームズ奨学金積立金繰入	10,000	10,000	0	
					国内奨学金積立金繰入	10,000	100,000	△90,000	
					セミナー特定預金繰入支出	800,000	0	800,000	
					4 予 備 費	100,000	100,000	0	
A 当期収入合計	17,252,100	17,122,100	130,000		D 当期支出合計	17,218,700	16,988,700	230,000	
B 前期繰越収支差額	10,000,000	10,000,000	0		E 当期収支差額 (A-D)	33,400	133,400	△100,000	
C 収入合計 (A+B)	27,252,100	27,122,100	130,000		F 次期繰越収支差額 (C-D)	10,033,400	10,133,400	△100,000	

借入金限度額 2006年度 0円
債務負担額 なし